

「21世紀を担う、心豊かで創造性にあふれたエンジニア」を育成するために！

平成 17 年 度

在学生・教員

KTC総合アンケート調査結果

[報告書（抜粋）]

金沢工業高等専門学校

平成17年度KTC総合アンケート調査結果について

KTC総合アンケートも、回を重ねてはや三回目の結果を配布できることとなった。当初は、調査対象学生の経験の度合いもあって、このアンケート結果の解釈については、慎重に対処すべきところも存在した。しかし回を重ねるにしたがって、アンケートに関するマナーも向上し、結果は学生の動向を類推できるものと言う考え方が、調査実施側にも根付き始めた。およそ学校が施策している事業にかかわる肯定的な意見は認めやすいが、否定的な意見は認めがたいというのは世の常である。これまでも、本校はアンケート結果を真摯に受け止め、全校挙げての教育改善活動を推進してきたと考える。

特に平成17年度は、独立法人大学評価学位授与機構の現地調査もあって、アンケートの価値が注目されたところである。幸いなことに評価結果が、「基準に適合する」ものであったことは歓迎すべきものである。現地調査の際、KTCアンケート調査結果が引用され、あるいはその存在が調査官の疑問を解決するのに貢献したことは、記憶に新しいところである。

さて、総合アンケートは、本校の全般的な事項に関する顧客満足のあらわれであると思えることが出来る。学生の感情がたかぶった状態で回答されたとしても、回答は一定の系統性を持っており、サンプル数が多ければ、高い確率で、有意性があると評価できる。

学生は主として学生生活を通じて、メディアや自らの家庭における生活などと比較しながら、少なくとも二つの見方で学校評価を行っている。一つは、学校が教育基盤を構成する主要な設備としてである。他の一つは、友人や自らが一定の時間楽しみを享受できるところとみていることである。

したがって、学生にとっては勉強の観点のみならず、嗜好に関する事項まで気に掛かる。そこで、本校としても、少なくともこの二つの視点から教育基盤の改善を完成させる必要がある。

このような観点に立って三回にわたるアンケート結果を比較検討すれば、関係者が自ら改善すべき要因を発見し、その排除に向かって精進する必要性と解決策を認識できるはずである。

一日も早く快適な学校生活が実現できることを期待し、努力したい。

金沢工業高等専門学校
校長 山 田 弘 文

< 1-1 > 全体概略

調査の目的

本調査は下記の目的に従って実施した。

- 本調査は金沢高専の現在の状況を把握し、今後の教育改善を考えるための情報を収集することを主目的とする。
- また、この調査企画では教職員にも金沢高専の評価を聞き、学生との意識の違いを見いだすことで、学生のための学校づくりを考えるためのヒントを得ることも目的とする。
- 本調査は、将来的に継続して実施していくことで、金沢高専の評価の変化を時系列で確認することを前提として設計している。今回は平成15年度の調査に続く3回目であり、3年間の時系列による状況の変化を把握する。
- なお、今回は一部の調査項目を見直しているため、全ての設問で比較できる状態にはない。

調査の概略

今回の調査の概略は下記の通り。

項目	内容	
調査概略	調査票による自記入式調査とした。(配布方法は下記の通り。全て学内での配布とした。) なお、全て無記名式とした。	
総回収数	総回収数は627サンプル(昨年は649サンプル)	
対象者と実施方法	1年生～5年生	・各クラスで配布し、回収した。(配布:2月10日、回収締切:2月10日) ・有効回答数 1年生:122サンプル、2年生:130サンプル、3年生:113サンプル、4年生:113サンプル、5年生:101サンプル
	卒業生	・今回は実施せず。5年に1回実施する予定で、次回の実施は平成20年度の予定。
	教職員	・各教職員に配布し、回収した。(配布:2月10日、回収締切:2月17日) ・有効回答数 48サンプル
	企業担当者	・今回は実施せず。5年に1回実施する予定で、次回の実施は平成20年度の予定。
調査主体	学校法人 金沢工業大学	
集計	有限会社 アイ・ポイント	

調査内容と見直しに関して

各属性別に実施した主な調査項目と昨年からの見直し内容は下記の通り。

質問分野	質問形式	見直し内容	1年	2年	3年	4年	5年	教職員
授業に関して	選択肢式 & 自由記述	昨年通り(一部追加)						
教員に関して	選択肢式 & 自由記述	昨年通り						×
「私の目標」に関して	選択肢式(達成度含む)	新設						×
1年間の過ごし方	選択肢式	新設(学生生活、勉強、クラブ、友人)						×
KIT-IDEALSに関して	選択肢式	学生にも実施(昨年までは教職員のみ)						
学生生活の過ごし方に関して	選択肢式	廃止	×	×	×	×	×	×
学生生活に関して	選択肢式 & 自由記述	廃止(1年の過ごし方に含める)	×	×	×	×	×	×
施設や設備などに関して	自由記述	昨年通り						
金沢高専に関して	選択肢式 & 自由記述	廃止(1年の過ごし方に含める)	×	×	×	×	×	×
就職・進学に関して	選択肢式 & 自由記述	昨年通り	×	×	×			×
人材像に関して	選択肢式 & 自由記述	学生への質問は簡素化	×	×	×	簡易版	簡易版	
教員業務に関して	選択肢式	昨年通り	×	×	×	×	×	

集計に関して

今回の調査結果は基本的に下記の方針で集計、分析を行っている。ただし、これらの内容と異なる際には各ページに注意書きをつけている。

分野	注意点
加重平均に関して	<ul style="list-style-type: none"> 各調査項目を属性毎に比較するために、加重平均値を多く活用している。 今回の調査では、選択肢を「そう思う～どちらかといえばそう思う～どちらかといえばそう思わない～そう思わない」などのように4択式で構成した。なお、「あてはまらない、分からない」は無回答として処理した。 加重平均は上記の選択肢に、+10点、+5点、-5点、-10点を掛けて回答者数で除して算出した。従って、最高点が10点で最低点がマイナス10点となる。 「あてはまらない、分からない」「無回答」は回答者数に含めていない。
グラフに関して	<ul style="list-style-type: none"> 折れ線グラフは主に時系列変化を見る際に利用されるが、この報告書では加重平均を属性毎に比較する際に、本来の棒グラフでは見にくくなるために折れ線グラフで表現している。
昨年との比較に関して	<ul style="list-style-type: none"> いくつかの項目で昨年度との比較を行ったが、調査対象者の違い、集計に含める範囲の違いなどにより、同じ切り口の集計結果でも結果が昨年度のものとは異なるものがある。 純粋な学生の意見を見るために、教員に同じ質問をした部分に関しても、特に断りのない場合は学生の回答だけで集計している。 ただし、今年度の集計に関しては、同一条件で比較できるものとなっている。

< 1-2 > 回答者の基本属性

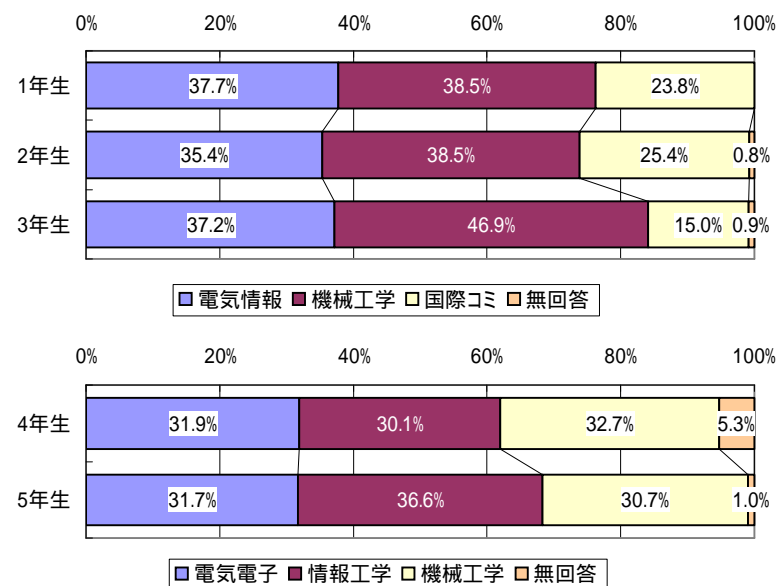
回答者全体像

- 今回の調査対象者は下記の通りであった。
- 学年毎の人数としては、2年生が130名と最も多く、次いで1年生が122名であった。
- 在学生の所属学科を見ると、留学による回答者の減少のため、3年生の「国際コミ」の少なさが目立っていた。
- そして、学科再編前では4年生で「情報工学」が少なめ、5年生で「機械工学」が少なめであった。

学年、属性別回答者数内訳

学年	学科	小計	合計
1年生	電気情報工学科	46 37.7%	122
	機械工学科	47 38.5%	
	国際コミュニケーション情報工学科	29 23.8%	
	無回答	0 0.0%	
2年生	電気情報工学科	46 35.4%	130
	機械工学科	50 38.5%	
	国際コミュニケーション情報工学科	33 25.4%	
	無回答	1 0.8%	
3年生	電気情報工学科	42 37.2%	113
	機械工学科	53 46.9%	
	国際コミュニケーション情報工学科	17 15.0%	
	無回答	1 0.9%	
4年生	電気工学科(電気電子コース)	36 31.9%	113
	電気工学科(情報コース)	34 30.1%	
	機械工学科	37 32.7%	
	無回答	6 5.3%	
5年生	電気工学科(電気電子コース)	32 31.7%	101
	電気工学科(情報コース)	37 36.6%	
	機械工学科	31 30.7%	
	無回答	1 1.0%	
教職員			48
総計			627

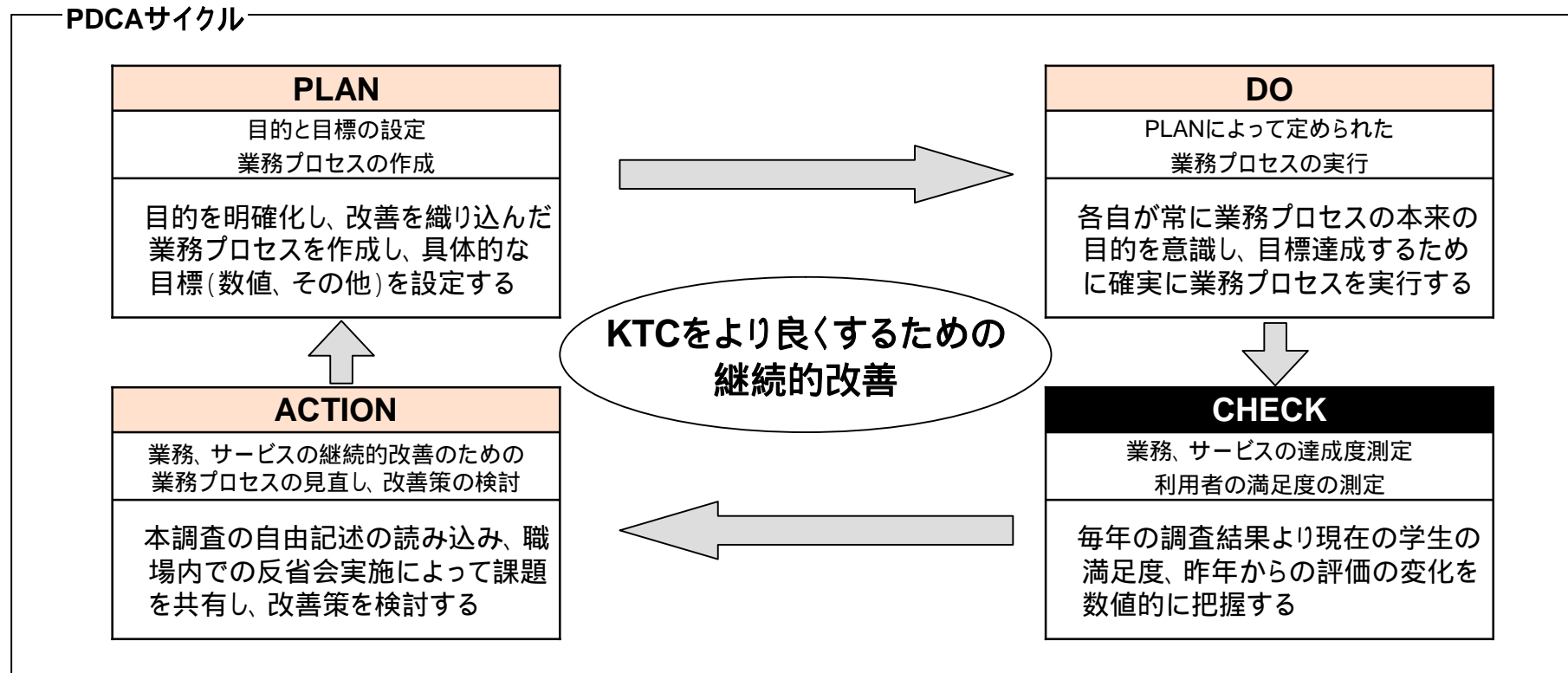
所属学科



< 2-3 > PDCAサイクルに関して

PDCAサイクルの中での本報告書の位置づけ

本報告書は下記のような業務改善の流れの中で、下記のようにCHECKステップに位置づけられる。(昨年と同内容)



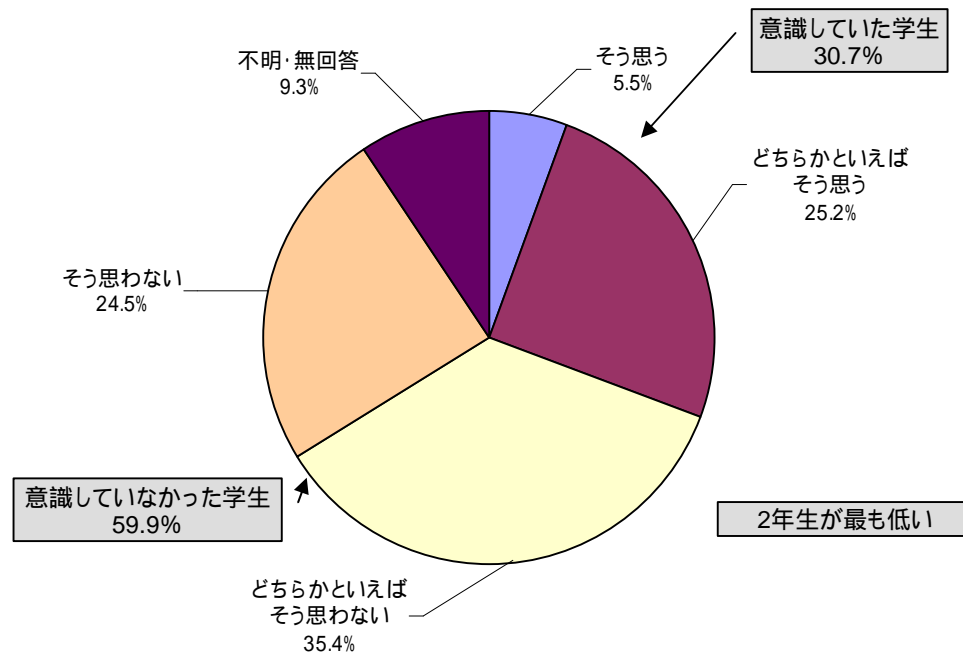
- 今回の調査によって得られた「学生の満足度」は、上記「PDCAサイクル」の中の「CHECKステップ」に相当する。
- この報告書で得られた結果はあくまでもアンケート結果を統計的に分析し、その結果に妥当と思われる理由をつけ加えた「仮説」であり、その検証と活用は今後の「ACTIONステップ」で行うことになる。
- また、ここで得られた数値的な結果を解釈し、金沢高専の改善に役立てるのは、実際に現場で教育や学校運営に携わっているメンバーが行うことであり、この報告書はその参考と位置づけられる。
- 「PDCAサイクル」は一時的なものではなく継続的な改善を目指すものである。従って次回からは「昨年と比較して評価がどう変化したのか?」「自らが設定した目標は達成したのか?」といった変化を見ることが主眼となる。
- 本報告書は、上記のような位置づけを継続していくことで、金沢高専の改善に資することを目的としている。

< 3-3 > 「私の目標」に関して

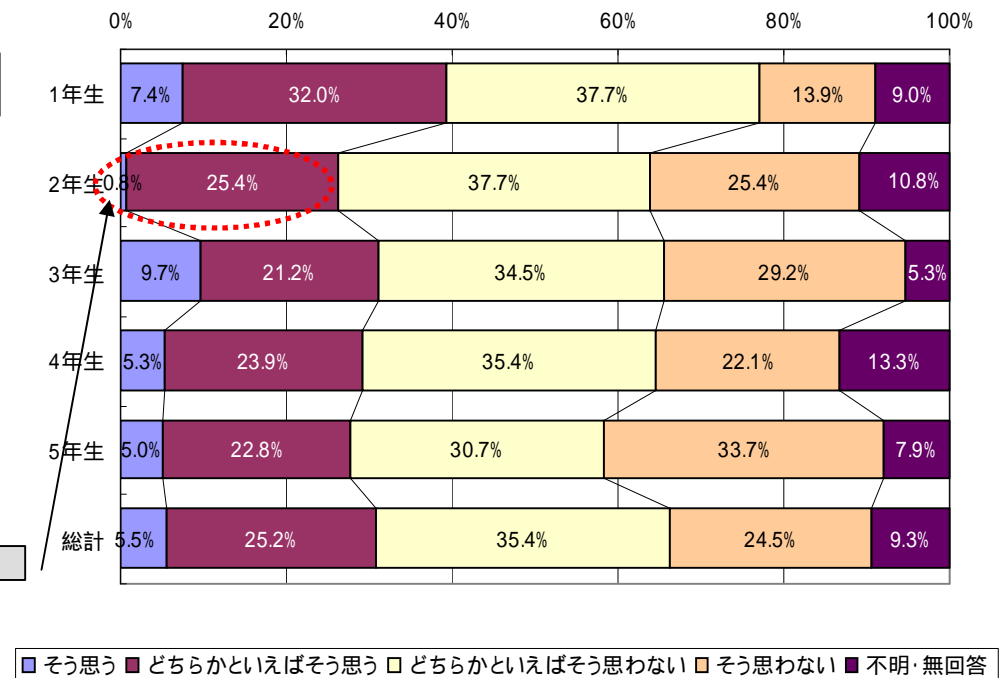
「私の目標」の意識に関して

- 今回から「私の目標」に関していくつかの設問を追加した。
- まず、「今年1年間自分自身で定めた『私の目標』を意識して過ごすことができましたか？」という設問に関しては、「そう思う」は5.5%、「どちらかといえばそう思う」は25.2%であり、「意識していた」という回答は30.7%にとどまっていた。そして、「意識していなかった」という回答は59.9%であった。
- 学年別に見ると、1年生では「意識していた」という回答は39.4%であったが、2年生は全学年でも最も低く26.2%であり、「そう思う」は0.8%と非常に少なかった。
- そして、3年生では「意識していた」という回答が少し増加していたが、3年生～4年生はほとんど変わらない結果であった。
- 1年生がフレッシュな状態で「私の目標」を強く意識している点は分かるが、2年生が大きく落ち込む点の理由は不明であり、今後のテーマになると思われる。

1年間 「私の目標」を意識して過ごすことができましたか？



「私の目標」の意識 学年別比較

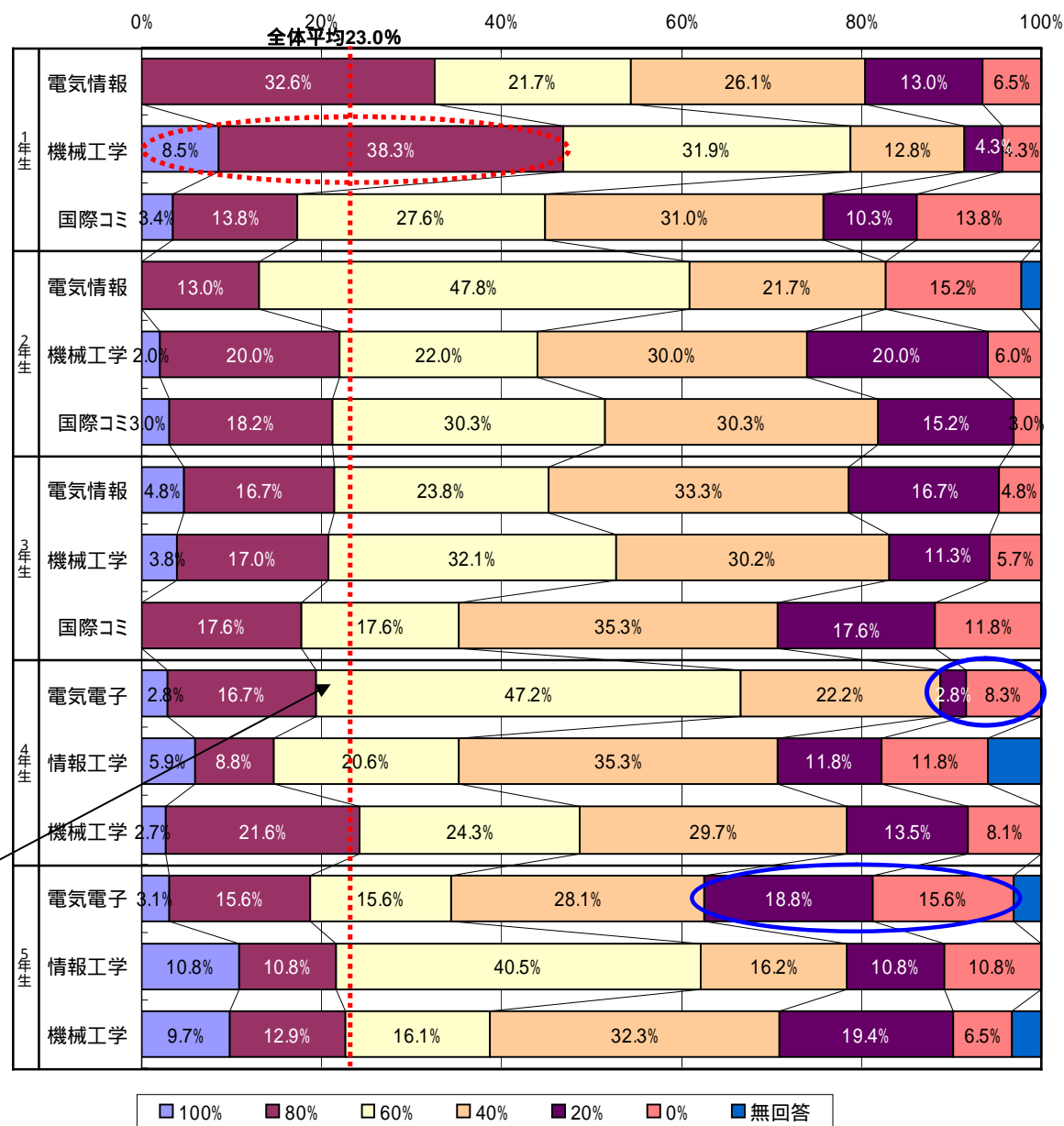


「学習面」の達成度 学年別・学科別比較

- 「学習面」に関して学年別、学科別に比較した。
23.0%の破線は全体の平均となる。
- 全体を見ると、まず1年生では学科による差が大きく、「機械工学」で最も達成度が高く「達成度100%～80%」の学生が46.8%と半数近かった。次いで「電気情報」「国際コミ」の順であったが、「国際コミ」の達成度は1年生としては非常に低いように見受けられた。
- 2～4年生で「達成度100%～80%」の割合を見るとそれほど大きな差が見られず、どの学年のどの学科でも学習面の達成度が高い学生が2割ほどいることが分かった。
- 「達成度20%～0%」の低い層では学科によって差が見られ、上記の達成度が高い層とは異なり、学習面の達成度が低い学生の割合は学年や学科によって差があることが分かった。
- 特に5年生の「電気電子」で達成度が低い層が34.4%と最も多かった。そして4年生の「電気電子」では達成度が低い層は11.1%にとどまった。同じ「電気電子」でも学年によってこれだけの差が見られ、「学年を問わずある学科の学習面の達成度が低い」という傾向はないように思われた。

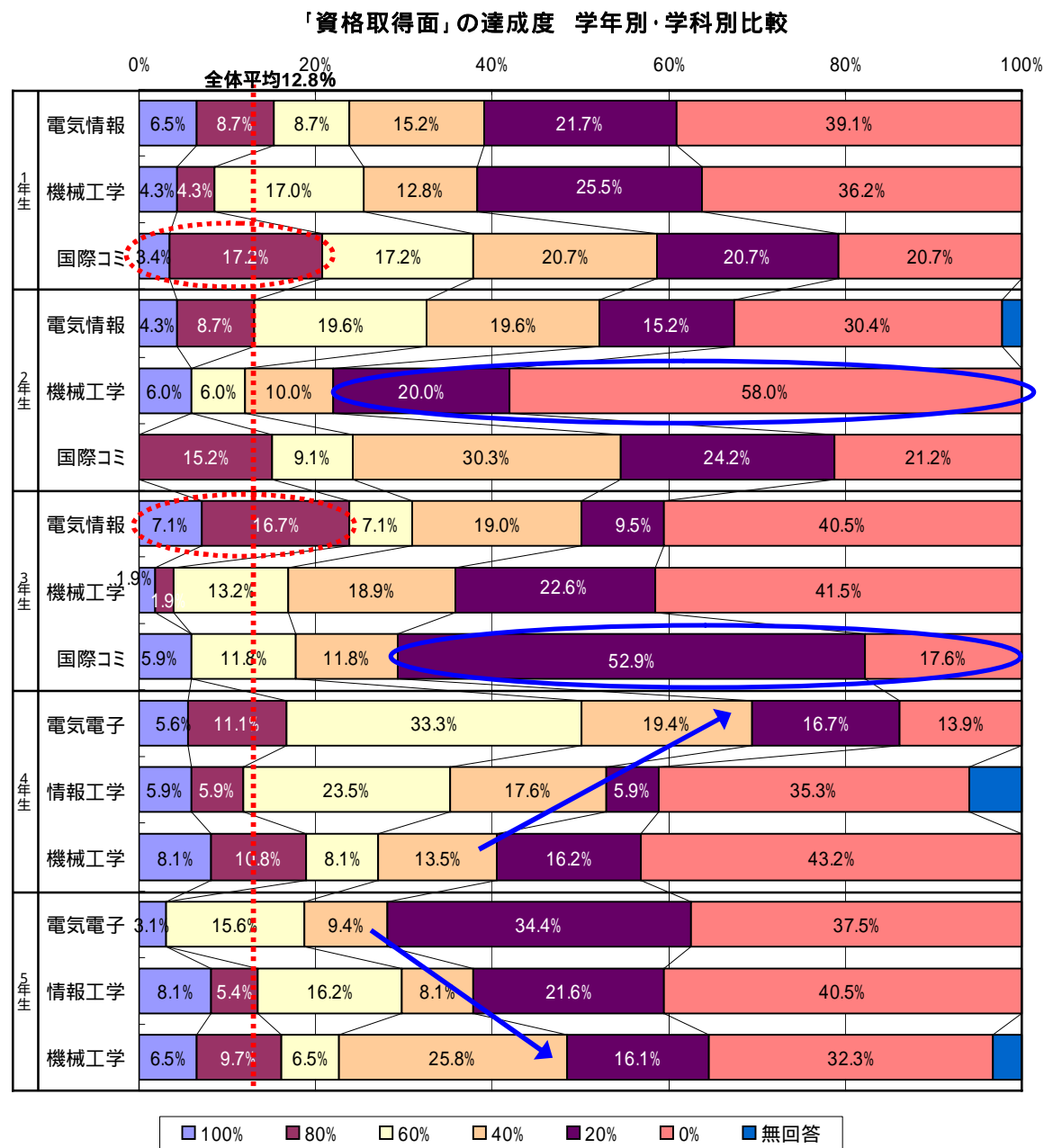
達成度が高い学生の割合はあまり変わらない

「学習面」の達成度 学年別・学科別比較



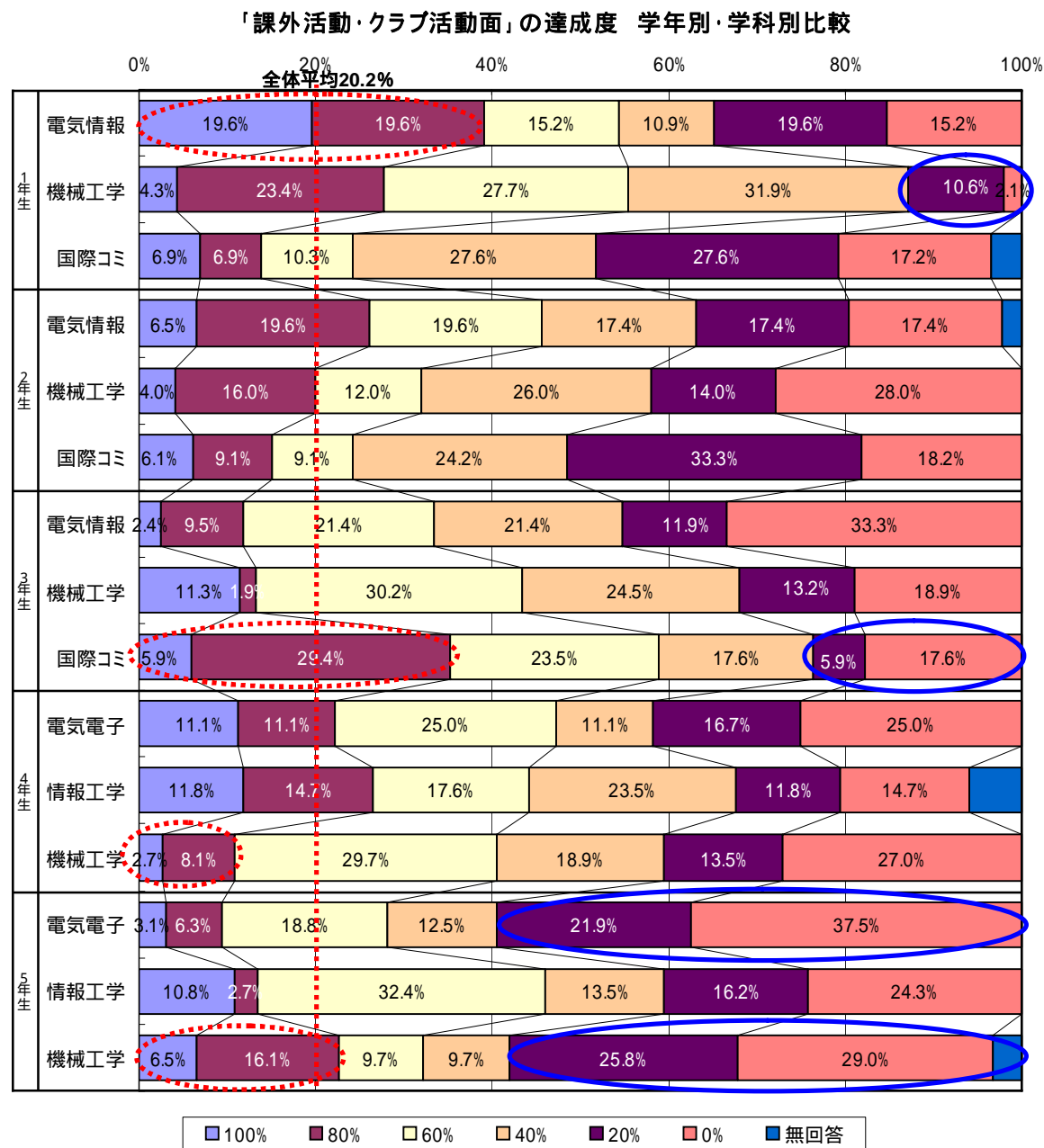
「資格取得面」の達成度 学年別・学科別比較

- 前項の「学習面」では2～4年生で「達成度100%～80%」という層は2割程度であったが、「資格取得面」で全体平均の12.8%を軸としてみると学年、学科によってばらつきが非常に大きいことが分かった。
- 1年生に関しては「国際コミ」の達成度が高めで、「電気情報」と「機械工学」が似たような傾向であった。
- 2年生では「機械工学」の達成度が非常に低く、「達成度0%」だけで58.0%であった。
- 3年生で達成度の高かったのは「電気情報」の23.8%であり、全学年・学科を通して最も達成度が高かった。そして、「国際コミ」は「達成度0%」が17.6%であったが、「達成度20%」が52.9%と非常に多く、全くダメだったわけではなく、あまり良くなかったと感じている層が多いと言える。
- 4年生では「達成度100%～80%」はそれほど大きく変わらず、5年生では「電気電子」の達成度が低かった。
- 4年生、5年生で「達成度20%～0%」という層を比較すると、4年生では「機械工学」が最も達成度が低く、「情報工学」「電気電子」という順であったが、5年生では全く逆で「電気電子」の達成度が最も低かった。「資格」自体の難易度もあると思われるが、このように学科による傾向が学年で全く異なるケースも見られた。



「課外活動・クラブ活動面」の達成度 学年別・学科別比較

- 「課外・クラブ活動」で全体平均と比較すると、学年・学科によって大きな差が見られる点もあった。
- 1年生では「電気情報」で「課外・クラブ活動」の達成度が高く、全体でも最も高かった。そして、「機械工学」も達成度が比較的高く、「達成度0～20%」が非常に少なかったため、全体的に充実度が高かったものと思われる。
- 2年生では「電気情報」の達成度が高く、「機械工学」「国際コミ」と下がってきていた。
- 3年生では「国際コミ」の達成度が非常に高く、全体でも2番目の高さであった。そして、「達成度0%～20%」も少なく、「課外・クラブ活動」は充実しているものと思われた。
- 4年生では「電気電子」と「情報工学」がよく似た傾向であり、「機械工学」が低い点が目立っていた。
- 5年生では「電気電子」と「機械工学」で「課外・クラブ活動」が充実していないようであった。ただし、「機械工学」は「充実度100%～80%」が2割以上となり、充実している層としていない層の二極化があるようであった。
- 「課外・クラブ活動」に関しても、学科による傾向が見られず、学年によって全く異なった傾向が現れていた。



「私の目標」に関するまとめ

1年間「私の目標」を意識していた学生は30.7%で、 学年別には1年生が最も意識していた。

- この1年間で「私の目標」を意識していた学生は30.7%で、意識していなかった学生が59.9%と過半数を占めていた。
- 1年生は39.4%が意識していたが、最も低かったのは2年生で、26.2%しか意識していなかった。
- フレッシュな状態の1年生の割合が高いのは理解できるが、2年生が一気に落ち込んでいる点が気になった。

「学習面」では1年生の達成度が高かった。そして2～4年生では 学年・学科を問わず約2割の達成度が高い学生が見られた。

- 「学習面」では1年生の達成度が高かった。そして、2～4年生の達成度にはあまり差がなく、学年・学科を問わず約2割は達成度が高い学生が見られた。
- 一方、学習面の達成度が低い学生の割合は学年や学科によって差があることが分かった。
- 同じ「電気電子」でも4年生と5年生では大きな差があり、「学年を問わずある学科の学習面の達成度が低い」という傾向はないようであった。

1年生の「機械工学」は最も「私の目標」を意識しており、 次いで5年生の「情報工学」で意識している割合が高かった。

- 1年生は意識している割合は全体的に高く、中でも「機械工学」が最も高かった。
- 2年生は学科の差が大きく「電気情報」で意識している割合が高かったが、「国際コミ」と「機械工学」が非常に低く、2年生全体を引き下げたと言える。
- また、5年生では「情報工学」が非常に高く、「電気電子」が非常に低い割合であり、その差は目立って大きかった。

「資格取得面」では学年・学科によるばらつきが大きく、 同じ学科でも学年が異なると全く違う達成度であった。

- 資格取得の機会や難易度が異なるためか、「資格取得面」では学年、学科によってばらつきが非常に大きく、「学習面」の達成度とは異なっていた。
- 全体から見ると1年生の「国際コミ」や3年生の「電気情報」の達成度が高めであった。
- また、4年生では「電気電子」の達成度が非常に高かったが、5年生では同じ「電気電子」の達成度が非常に低いといった状況も確認できた。

「学習面」での達成度が最も高く、次いで「課外活動・クラブ活動面」、 「資格取得面」という順であった。

- 「達成度100%～80%」の割合では「学習面(23.0%)」「課外・クラブ活動面(20.2%)」「資格取得面(12.8%)」という順であった。
- 「達成度20%～0%」は「資格取得面」では55.4%であり、資格取得に失敗した学生も多いのではないかとと思われる。
- 「学習面」「課外活動・クラブ活動面」では1年生の達成度が高く、「資格取得面」では4年生の達成度が高めであった。

「課外・クラブ活動面」も学年・学科によるばらつきが大きく、 5年生は低めであるが学年、学科で傾向が大きく異なった。

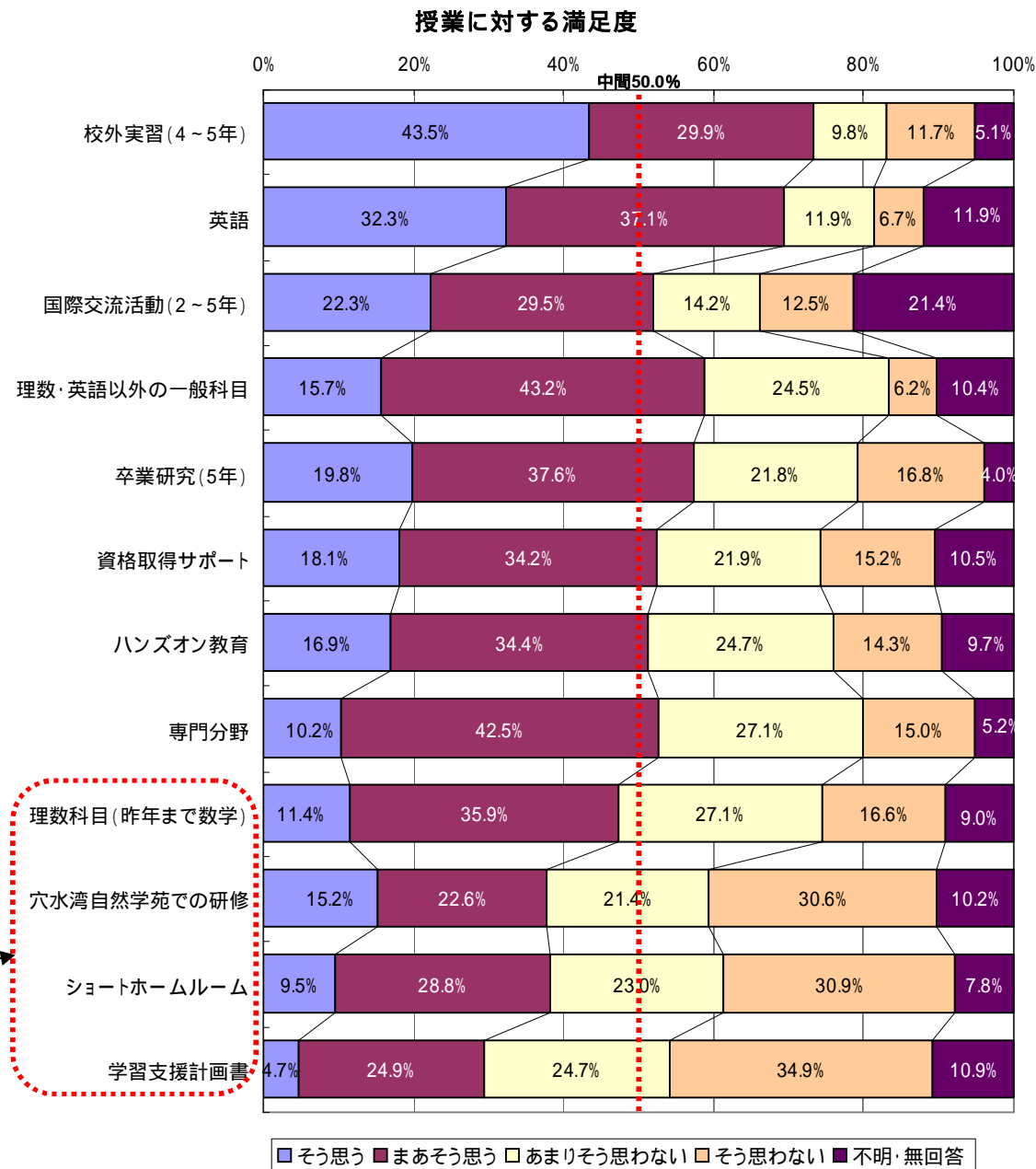
- 「課外・クラブ活動」は5年生は就職や進学活動のためか満足度が低めであった。それ以外は、学年・学科によってばらつきが大きかった。
- 達成度が高かったのは1年生の「電気情報」や3年生の「国際コミ」などであったが、1～2年生の「国際コミ」や3年生の「電気情報」は達成度が非常に低いなど、学科による傾向は確認できなかった。

< 4-1 > 授業に関して

授業満足度の全体像

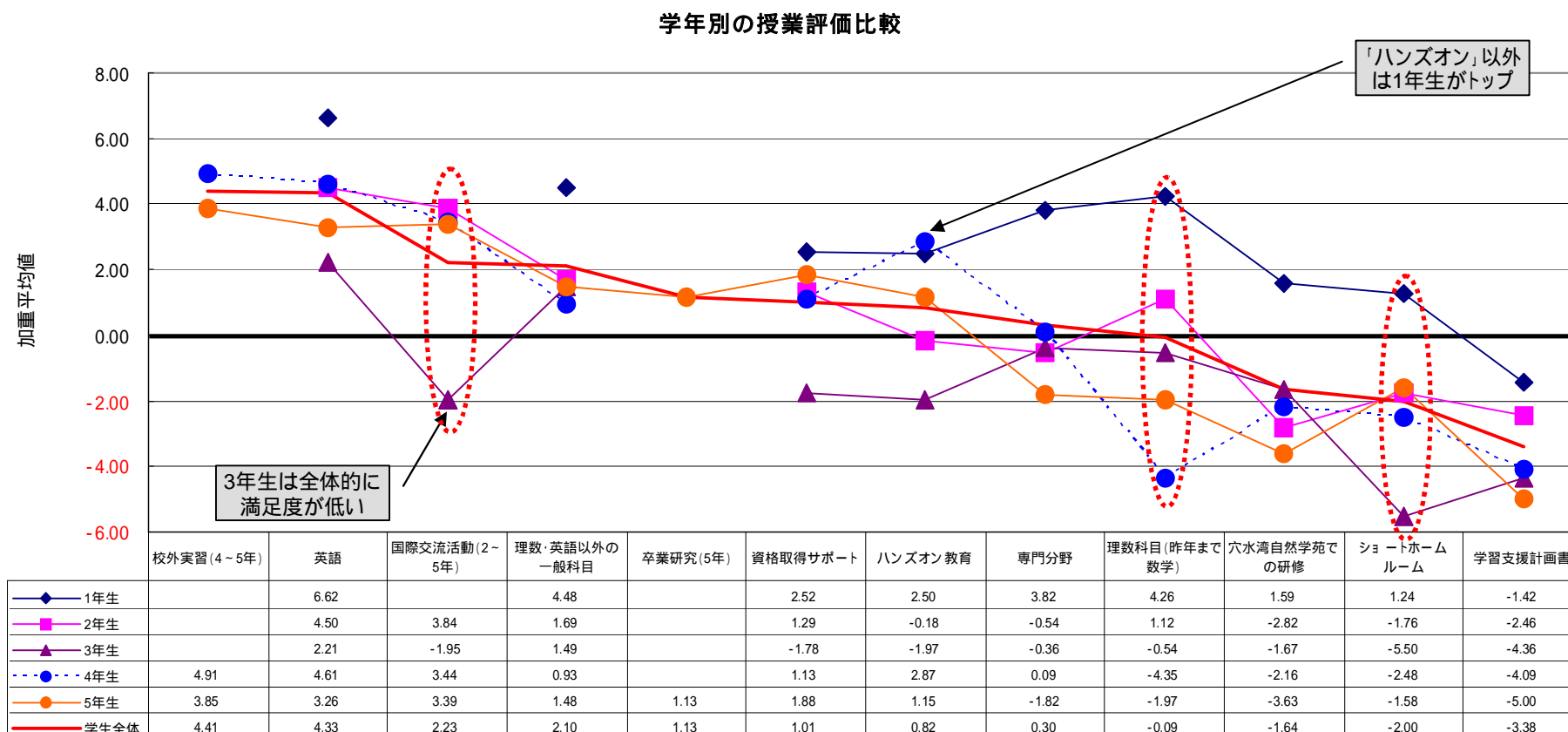
- 授業に対して12の設問を聞いており、「国際交流活動」「校外実習」「卒業研究」は一部の学年に対して聞いている。また、右のグラフはパーセンテージではなく加重平均順に並べ替えている。
- 最も満足度が高かったのは4～5年生だけの授業であるが「校外実習」であり、「そう思う」が43.5%と半数に近く、「まあそう思う」と合わせると73.4%が満足していた。
- 次いで「英語」の満足度も高めであり、69.4%が満足していた。
- 「国際交流活動」は参加していない学生が「わからない」と回答していると思われるが、参加者の満足度は高かった。
- その他の授業を見ても「理数科目」「穴水湾自然学苑」「ショートホームルーム」「学習支援計画書」の4科目以外は過半数が満足していた。
- 全体の傾向を見ると、「校外実習」「英語」「国際交流」「理数・英語以外」など、専門以外の科目の満足度がやや高めであった。そして、半数程度は満足しているものの「理数科目」「専門分野」「ハンズオン教育」といった専門科目の満足度がやや低めであった。

満足しているという意見が50%に達しなかったのは4科目



加重平均による学年別比較

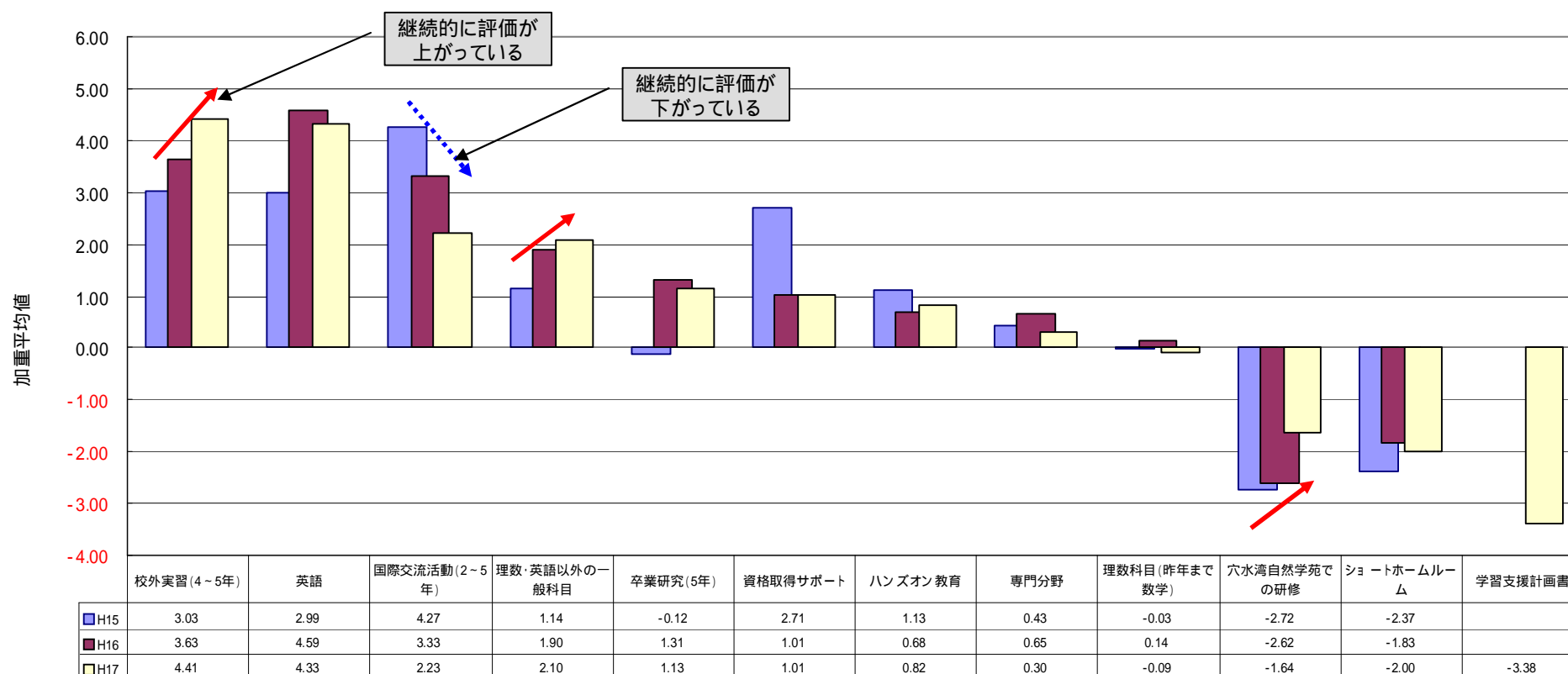
- 授業の評価を加重平均で学年別に比較したところ、全般的に1年生の満足度が高く、3年生が低めという傾向が見られた。
- 1年生は「ハンズオン教育」の満足度だけは4年生よりも低かったが、他の科目の満足度は全て最も高かった。
- 逆に満足度が低めだったのは3年生で、「国際交流」「資格取得サポート」「ハンズオン教育」「ショートホームルーム」などの満足度は非常に低く、他の科目も全て学生全体の平均よりも低く、全面的に満足度が低いことが分かった。また、5年生も「専門分野」「穴水湾自然学苑」「学習支援計画書」の満足度がやや低めであり、それほど満足度は高くないと思われる。
- 4年生は「理数科目」の満足度が低い点が目立っていたが、「ハンズオン教育」の満足度が1年生を上回るなどの特徴が見られた。
- 学年による差が最も大きかったのは「理数科目」であり、「国際交流」「ショートホームルーム」も差が大きめであった。
- 逆に学年による差が少なかったのは「学習支援計画書」であるが、残念ながら全ての学年の加重平均がマイナスとなっており、何らかの改善策を考える必要があるのではないと思われる。



授業満足度の経年変化

- 「学習支援計画書」以外は3年間継続的に聞いているため経年変化を見てみた。なお、「理数科目」は昨年までは「数学」として聞いていたため、その違いが含まれている可能性もある。
- 満足度が上がっているものはスコアが大きくなっているものであるが、「校外実習」「一般科目」「穴水湾自然学苑」の3科目はH15年度から継続的にスコアが大きくなってきており、何らかの改善がなされて学生の満足度が増していると言える。
- H16年度からH17年度にかけての1年間だけを見ると、「ハンズオン教育」のスコアも増している。
- 逆にスコアが下がっているものとして「国際交流」があるが、これはH15年度から継続的に下がっており、その下がり方も急であるため、原因を究明した方が良いと思われる。
- 1年だけで見ると「英語」「卒業研究」「専門分野」「理数科目」「ショートホームルーム」で、わずかではあるがスコアが下がっていた。
- わずかなスコアの増減は今後の動きを見て対応を決めることで良いと思われるが、明らかに変動があったものに関しては早急に原因を究明する必要があると思われる。

授業評価の年度別比較



授業に関するまとめ

**最も満足度が高いのは「校外実習」で73.4%が満足、
次いで「英語」は69.4%が満足していた。**

- ❑ 4～5年生だけが対象であるが「校外実習」の満足度は最も高く、それに次ぐ「英語」も約7割の学生が満足していた。
- ❑ 「国際交流活動」は不参加者の無回答が多かったが、参加者の満足度は上記に次ぐものであった。
- ❑ 授業の中で満足度が高かったのは、上記のものを含めて専門以外の科目が多かった。

**「機械工学」の満足度が全体的に高めで、
特に「ハンズオン教育」の満足度が高い。**

- ❑ 1～3年生、4～5年生共に「機械工学」の満足度が高かった。学年によって満足度の高いものは異なるが、いずれも「ハンズオン教育」には満足していた。
- ❑ 1～3年生の「国際コミ」は「英語」の満足度が高く、「ハンズオン教育」の満足度が低い。また「電気情報」は「理数科目」が高めという特徴が見られた。
- ❑ 4～5年生では「情報工学」が全般的に満足度が低い点が目立っていた。また、「電気電子」で「穴水湾自然学苑での研修」の満足度が非常に低かった。

**「学習支援計画書」の満足度が非常に低く、
「ショートホームルーム」「穴水湾自然学苑」の満足度も低かった。**

- ❑ 「学習支援計画書」は今回の調査から加えたが、満足しているという回答は29.6%にとどまり、改善の余地があるのではないかとされた。
- ❑ 満足しているという回答が半数に満たなかったのは、上記の他に「ショートホームルーム」「穴水湾自然学苑での研修」「理数科目」であった。
- ❑ 純粋な「授業」で見ると、「理数科目」「専門分野」「ハンズオン教育」など、専門科目の満足度が低いようであった。

**「校外実習」「一般科目」「穴水湾」の満足度はH15年度より
継続的に上がっているが、「国際交流活動」は下がっている。**

- ❑ 「校外実習」は昨年度には「英語」に次ぐ満足度であったが、継続的に満足度が増しており、今年度はトップとなっていた。この要因は学生へのインタビューなどによってしっかりと把握しておきたい。
- ❑ また、「穴水湾自然学苑」の満足度は高いとは言えないが、継続的に向上しており、何らかの施策が行われているものと思われる。
- ❑ その他、継続的に満足度が低下していたのは「国際交流活動」であった。

**1年生が全般的に満足度が高く、3年生が低い。
また、4年生は「ハンズオン教育」の満足度が高かった。**

- ❑ 1年生の満足度は全般的に高めであり、「理数科目」「専門分野」にも抵抗はないようで満足度は高かった。
- ❑ 4年生は「理数科目」の満足度は非常に低かったが、「ハンズオン教育」の満足度は1年生を上回っていた。
- ❑ 学年によって満足度の差が最も大きかったのは「理数科目」であり、「国際交流活動」「ショートホームルーム」も差が大きめであった。

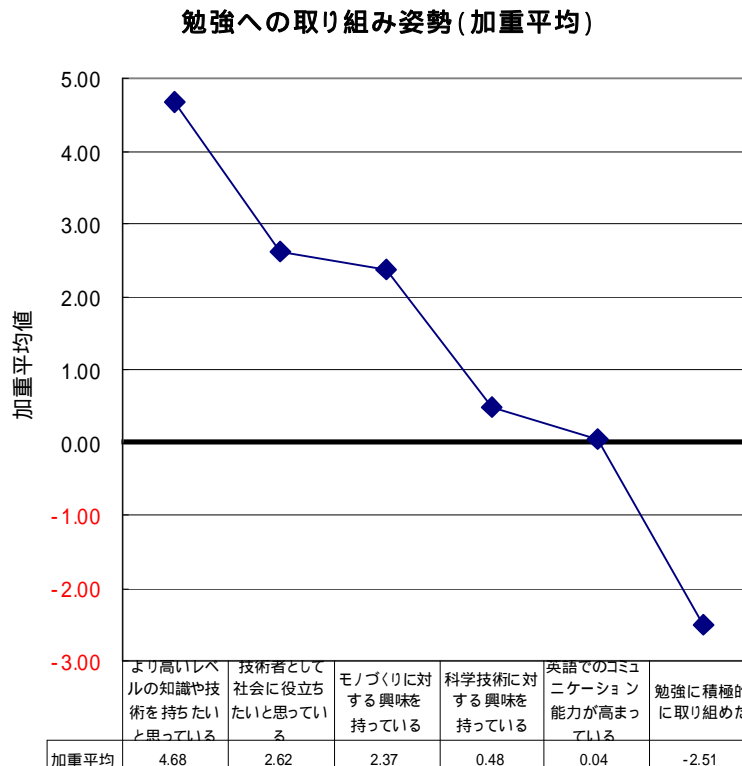
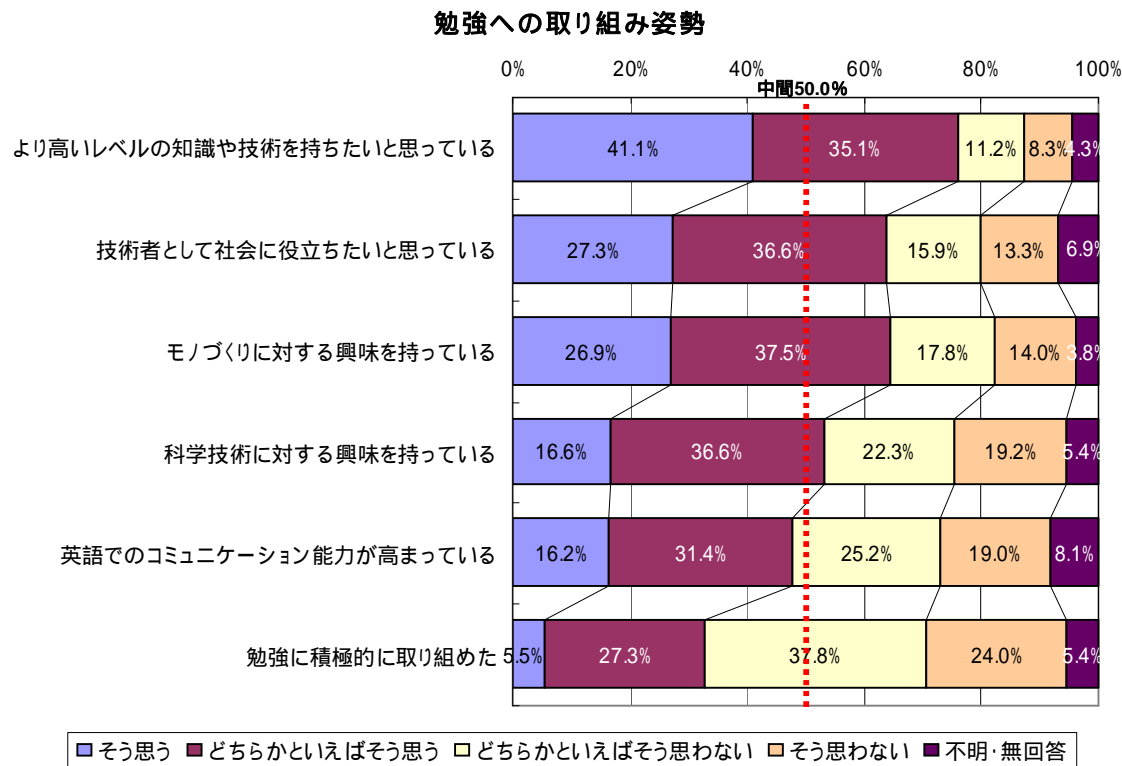
**全ての授業科目で学生の満足度は
教職員が予想する満足度を下回っていた。**

- ❑ 「穴水湾自然学苑」の評価は学生と教職員でほぼ一致していたが、両者共に満足度は低いものであった。
- ❑ 「一般科目」「英語」「専門分野」の評価は学生と教職員で比較的近かったが、「国際交流活動」「資格取得サポート」「ハンズオン教育」などに関しては、学生の満足度は教職員の予想を大きく下回っていた。
- ❑ 「学習支援計画書」は学生、教職員共に厳しい評価であった。

< 4-2 > 勉強への取り組み姿勢に関して

勉強への取り組み姿勢

- 今回、1年間の過ごし方として「勉強への取り組み姿勢」という設問を新設した。
- 「より高いレベルの知識や技術を持ちたいと思っている」に対しては、「そう思う」が41.1%、「どちらかといえばそう思う」が35.1%であり、合わせると76.2%と、非常に多くの学生が積極的に知識や技術を身につけたいと思っていることが分かった。
- 「技術者として社会に役立ちたいと思っている」「モノづくりに対する興味を持っている」は同じような傾向であり、6割強がそのようなニーズを持っていた。また、「科学技術に対する興味を持っている」も半数以上がそのように考えていた。
- 逆に、割合が少なかったのは「英語でのコミュニケーション能力が高まっている」「勉強に積極的に取り組めた」の2つであるが、この2つは興味や要望ではなく、現状のことを聞いているため、賛同する回答が少なかったとも考えられる。
- これらより、学生たちは知識や技術、モノづくりや科学技術に対する興味を持っており、技術者として社会に役立ちたいと考えているようであり、前向きな姿勢を持っていることが確認できた。



勉強への取り組み姿勢に関するまとめ

7割以上の学生が「より高いレベルの知識や技術を持ちたいと思っている」と答えており、積極性がうかがえた。

- 「より高いレベルの知識や技術を持ちたい」という学生は76.2%と、非常に積極的な姿勢が感じられた。
- また、「技術者として社会に役立ちたい」「モノづくりに対する興味を持っている」という学生はいずれも6割を上回っており、「科学技術に対する興味を持っている」も5割に達していた。
- これらの結果を見ると、非常に前向きな学生像がうかがえる。

**全体的に「機械工学」で前向きな姿勢が見られた。
「英語」「モノづくり」では学科によって大きな開きが見られた。**

- 学科別に比較すると1～3年生の「機械工学」が最も積極的に勉強に取り組んでいるようで、特に「モノづくり」「科学技術」に強い興味を持っていた。
- 4～5年生の「機械工学」も積極的であったが、「英語でのコミュニケーション能力」はそれほど高まっていないと感じていた。
- 「モノづくりに対する興味」「英語でのコミュニケーション能力」は学科による差が大きく、モノづくりは「機械工学」、英語は「国際コミ」のスコアが高かった。

**「勉強に積極的に取り組めた」と
答えている学生は32.8%であった。**

- 前の項目では非常に前向きな学生像が見られたが、「勉強に積極的に取り組めた」は32.8%であり、希望と現実のギャップが見られた。
- また、「英語でのコミュニケーション能力が高まっている」は47.6%であり、英語の授業での満足度が高かったことと比べると、なかなか実態が追いついていない状況がうかがえる。

1年生が最も積極的で、次いで4年生で前向きな姿勢が見られ、5年生には積極的な姿勢が見られなかった。

- 1年生は全ての項目で最もスコアが高かった。特に「英語でのコミュニケーション能力が高まっている」が非常に高く、満足度も高いものと思われる。
- 4年生は高い知識や技術を持ち、技術者として社会に役立ちたいと考えているが、実際には積極的に勉強に取り組んでいるわけではなかった。

教員に関するまとめ

「授業時間外も質問に答えてくれる」「開始から終了のチャイムまできちんと授業をする」という先生は多いと感じている。

- 「授業時間外も質問に対して丁寧に答えてくれる先生」「開始から終了のチャイムまできちんと授業をする先生」は多いと感じているようであった。
- そして、「研究への取り組みが熱心」「授業への取り組みが熱心」「私語の注意など授業に集中できるよう指導する先生」も比較的多いと感じていた。
- これらを見ると、授業の進行に関する教員の評価は高いと言える。

**1～3年生の「機械工学」は教員の評価が高かった。
最も厳しく評価していたのは4～5年生の「電気電子」であった。**

- 1～3年生では、「機械工学」が全ての面で最も教員評価が高かった。次いで「電気情報」で教員を高めに評価していた。
- ここまで「機械工学」は学年を問わず各項目で満足度が高かったが、4～5年生の「機械工学」の教員評価は、一部に高いものもあるが、全体ではそれほど高いものではなかった。
- 全般的に教員に厳しい評価をしていたのは4～5年生の「電気電子」であった。

**「学生を意欲的にさせる」「尊敬できる」「気軽に相談できる」
「課外活動に熱心」「もう一度教わりたい」という先生は多くない。**

- 上記の5項目のような教員は「多い」という意見は少なかった。
- 全体的に教員に対する評価は厳しいものであったが、前の項目のように授業の進行に関する評価は比較的高かった。
- しかし残念ながら、尊敬できる、気軽に相談できるといった人間的なつながりの面や、意欲的にさせる、もう一度教わりたいといった学生の動機づけに関して面では厳しい評価を受けていた。

「開始から終了のチャイムまできちんと授業をする」「勉強以外でも相談できる」という教員は増加してきていると感じている。

- 3年間継続的に評価が上がっていたのは、「開始から終了のチャイムまできちんと授業をする」と「勉強以外の面でも気軽に相談できる」の2点であった。
- 継続的に評価が下がっているもの、H16年度から大きく評価が下がっているものも見られなかった。
- H16年度からの変化は少ないものであり、継続的に改善されている2点を除くと現状維持というところだと思われる。

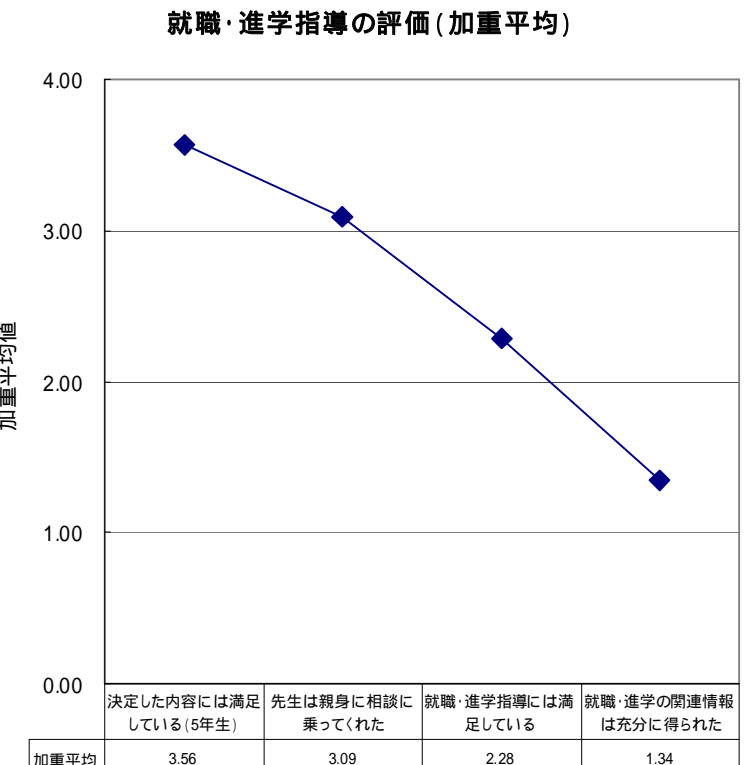
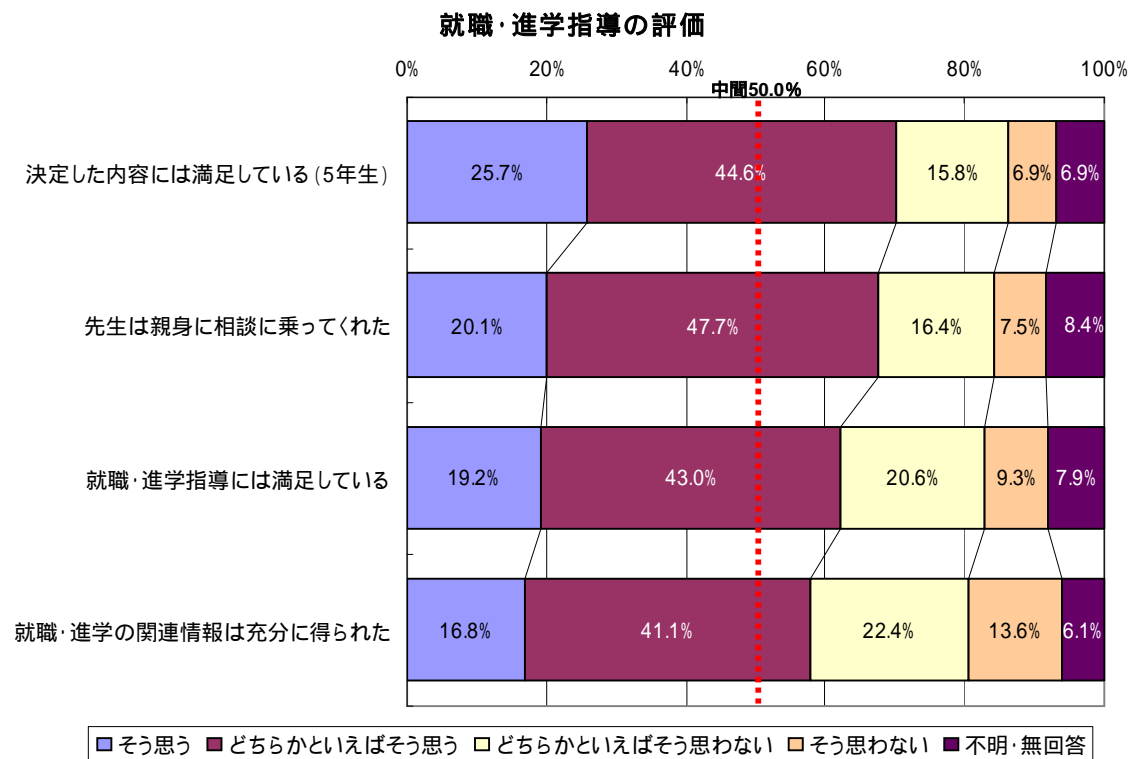
**1年生の教員評価は比較的高かったが、
2～5年生の教員評価にはそれほど大きな差は見られなかった。**

- 1年生は教員を高く評価しており、特に「授業への取り組みが熱心」「もう一度教わりたい」「学生を意欲的にさせる」の評価が高かった。
- 2年生で一部評価の高い項目があったが、全体的には2～5年生の間でそれほど大きな差は見られなかった。
- ここまでに4年生の満足度が高いなどの傾向があったが、教員評価は他の学年とそれほど大きな差は見られなかった。

< 4-4 > 就職・進学指導に関して

就職・進学指導に関して

- 就職・進学指導に関しては4、5年生のみに聞いており、3年間同じ質問を行っている。
- まず、5年生だけに聞いている「決定した内容には満足している」に対しては、「そう思う」が25.7%、「どちらかといえばそう思う」が44.6%であり、合わせると70.3%が就職や進学に関しての進路決定には満足しているとのことであった。
- 次いで満足度の高かったものは「先生は親身に相談に乗ってくれた」であり、67.8%が満足している。そして「就職・進学指導には満足している」が62.2%、「就職・進学の関連情報は十分に得られた」が57.9%の満足度であり、4項目全てで満足しているという意見が過半数であり、就職・進学指導に対する満足度は高めであることが確認できた。



就職・進学指導に関するまとめ

就職・進学指導の満足度は全体的に高めであり、 決定した内容には7割が満足していた。

- 5年生だけに対する質問であるが、「決定した内容には満足している」と答えている学生は70.3%であり、満足度は高めであった。
- 「先生は親身に相談に乗ってくれた」「就職・進学指導には満足している」「就職・進学の関連情報は十分に得られた」の各項目においても、約6割が満足していた。

就職・進学指導の満足度は H15年度から継続的に向上している。

- 就職・進学指導の満足度はH15年度から継続的に向上しており、評価が上がっていることが確認できる。
- 一方、「就職・進学指導の関連情報は十分に得られた」という意見は徐々に減っており、情報不足を感じている学生が増加していることが分かった。

就職・進学指導の満足度は5年生よりも4年生の方が 高かったが、その差はわずかであった。

- 対象が4年生と5年生だけであるため、その両者の比較となるが、全項目で4年生の満足度の方が高かった。
- ただし、両者の差はわずかずつで、それほど大きなものではなかった。

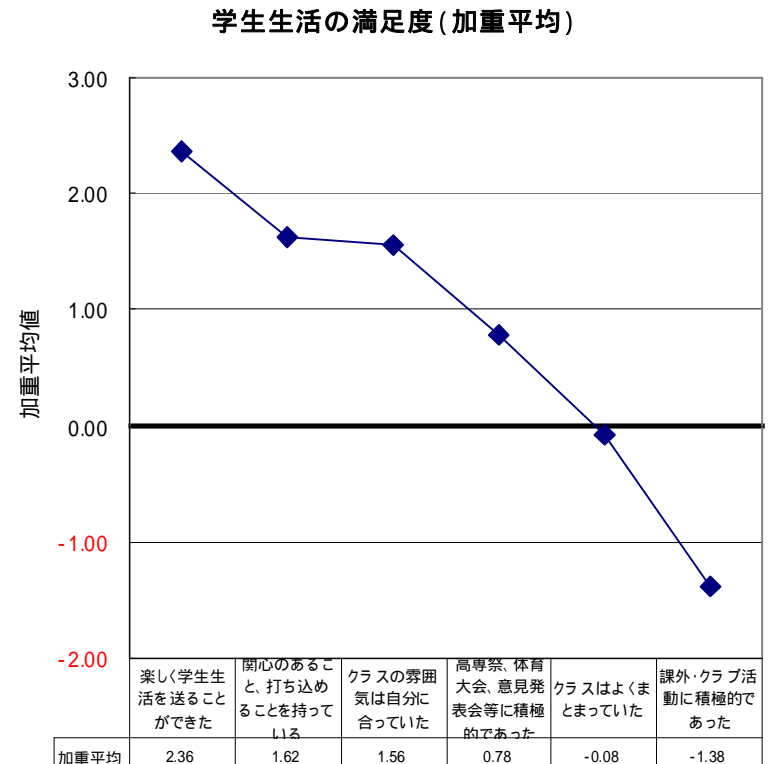
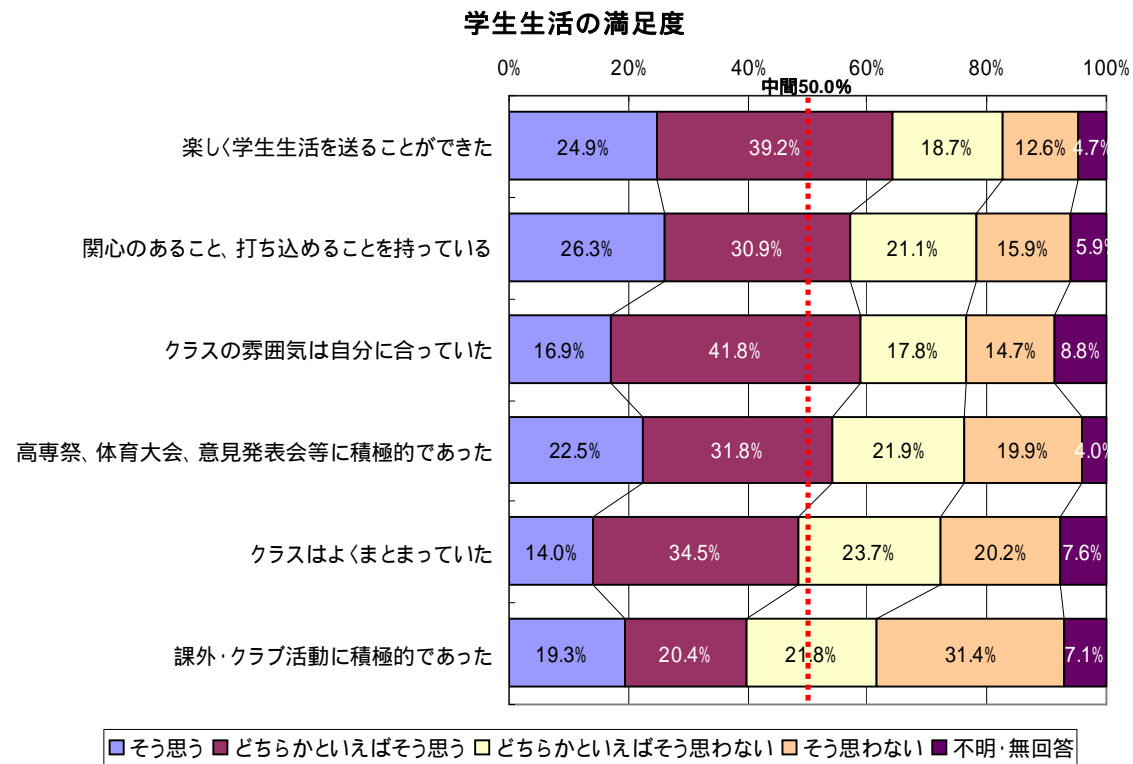
「機械工学」の満足度が高めで、 「情報工学」の満足度が非常に低かった。

- 「先生は親身に相談に乗ってくれた」だけは「電気電子」の満足度が最も高かったが、その他の項目では「機械工学」の満足度が最も高かった。
- 「電気電子」は上記の項目以外は平均的であった。
- 「情報工学」の満足度は非常に低く、「就職・進学指導の関連情報は十分に得られた」では加重平均値がマイナスとなり、不満を感じている意見の方が多かった。

< 4-5 > 学生生活の満足度に関して

学生生活の満足度に関して

- 学生生活に関しては、前出の「総合満足度」「好感度」と一緒に下記の6項目の質問をした。
- まず、「楽しく学生生活を送ることができた」に関しては「そう思う」が24.9%、「どちらかといえばそう思う」が39.2%であり、合わせると64.1%が楽しく学生生活を送ることができたと感じていると言える。
- 「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計が過半数に達することで充分とは言えないが、57.2%の学生が「関心のあること、打ち込めることを持っている」と回答しており、「クラスの雰囲気は自分に合っていた」と感じている学生は58.7%、「高専祭、体育大会、意見発表会等に積極的であった」と回答している学生は54.3%であった。
- 一方、満足度が低めであったのは「課外・クラブ活動に積極的であった」と「クラスはよくまとまっていた」の2項目であり、これらは加重平均ではマイナススコアであった。



学生生活の満足度に関するまとめ

約6割の学生は「楽しく学生生活を送ることができた」 「クラスの雰囲気は自分に合っていた」と感じていた。

- 64.1%の学生が「楽しく学生生活を送ることができた」と回答していた。また、58.7%は「クラスの雰囲気は自分に合っていた」と感じていた。
- そして、「関心のあること、打ち込めることを持っている」という学生は57.2%であり、これを見ると半数以上の学生は充実した学生生活を送っていたと考えられる。

全体的に「機械工学」が学生生活の満足度が高く、 クラスの雰囲気が良いようであった。

- 1～3年生の「機械工学」の満足度が全ての項目で最も高く、「クラスの雰囲気」クラスのまとまり」も良いようであった。
- 1～3年の中では「国際コミ」で「クラスの雰囲気が自分に合っていた」という意見が少なく、「電気情報」では「クラスがよくまとまっていた」が少なかった。
- 4～5年生でも「機械工学」の満足度が高かった。特にクラスのまとまりは良いようであった。

「課外・クラブ活動に積極的であった」 という学生は約4割であった。

- 「課外・クラブ活動に積極的であった」という学生は39.7%であった。課外・クラブ活動への参加率がどの程度か不明であるが、積極的でなかった学生の方が多かったようであった。
- 「クラスはよくまとまっていた」と回答していたのは48.5%であり、半数の学生はクラスがまとまっていないと感じていたようであった。

学生生活は全ての項目で継続的に満足度が向上している。

- H15年度からの変化を見ると、全ての項目で満足度が向上している。
- 特に「高専祭、体育祭、意見発表会等に積極的であった」と答える意見は非常に多くなってきている。
- また、「クラスの雰囲気」も良くなってきているようであった。

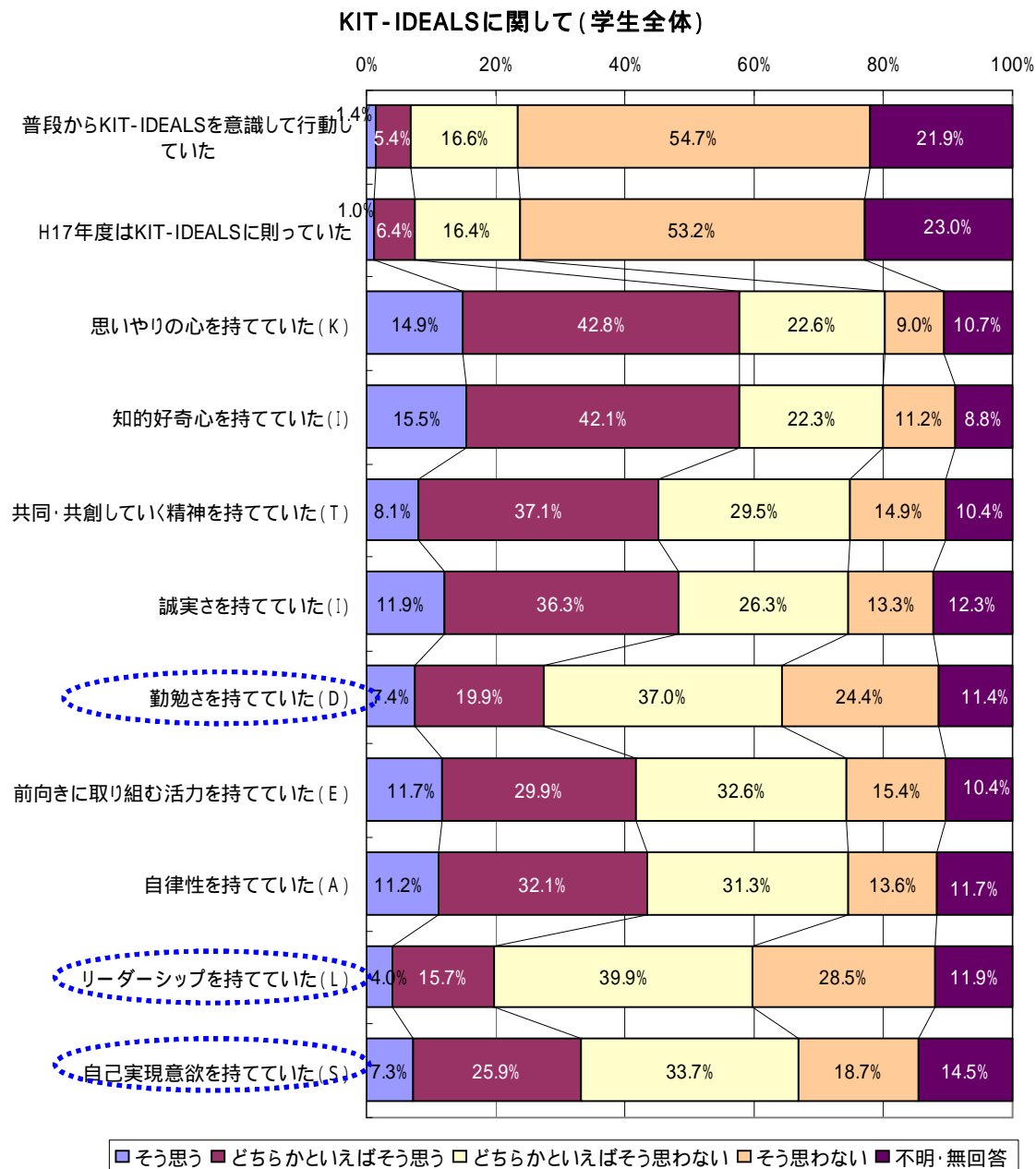
全体的に満足度が高いのは1年生であったが、 クラスのまとまりや雰囲気は4年生の満足度の方が高かった。

- 1年生は全体的に満足度が高く、特に「楽しく学生生活を送ることができた」と感じている学生が多かった。
- 4年生では「クラスの雰囲気は自分に合っていた」「クラスが良くまとまっていた」と感じている意見が最も多かった。
- 3年生と5年生は全体的に満足度が低く、学生生活が充実していないようであった。

< 5-1 > KIT-IDEALSに関して

学生のKIT-IDEALSに関して

- KIT-IDEALSに関しては学生と教職員に同じ内容で聞いているが、ここでは学生だけの結果を見た。なお、並び順は聞いたとおりとなっている。
- まず、H17年度の行動であるが、「普段からKIT-IDEALSを意識して行動していた」という回答は6.8%、「H17年度はKIT-IDEALSに則っていた」は7.4%にとどまっており、普段はKIT-IDEALSをそれほど意識していないことが分かった。
- そして、個別項目に関する回答を見ると、「思いやりの心(K)」「知的好奇心(I)」に関しては、比較的高めの割合であり、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせると5割を超えていた。
- そして、割合が低めだったのが「勤勉さ(D)」「リーダーシップ(L)」「自己実現意欲(S)」の3項目であり、これらが課題と言える。



KIT-IDEALSに関するまとめ

KIT-IDEALSを意識して行動していたという意見は 約7%程度であった。

- 「KIT-IDEALSを意識して行動していた」という意見は6.8%であった。また、「H17年度はKIT-IDEALSに則っていた」という意見は7.4%であった。
- これらの数値を見ると、普段はそれほどKIT-IDEALSを意識している訳ではないということが分かる。

学科別にはそれほど差はなかったが、 1～3年生の「機械工学」の意識が高めであった。

- 学科別にはそれほど大きな差はなかったが、強い差を見ると、1～3年生の「機械工学」がKIT-IDEALSに対する意識が強いようであった。
- そして、1～3年生の「国際コミ」、4～5年生の「電気電子」が低めであった。

「思いやりの心」「知的好奇心」は持っていた学生も多いが、 「勤勉さ」「リーダーシップ」などが不足していたと感じている。

- 「思いやりの心(K)」と「知的好奇心(I)」を持っていたという回答は5割を超えており、過半数の学生はそのような姿勢を持っていたようである。
- 「勤勉さ(D)」「リーダーシップ(L)」「自己実現意欲(S)」を持っていたという割合は低めであり、KIT-IDEALSではこれらが課題と言える。

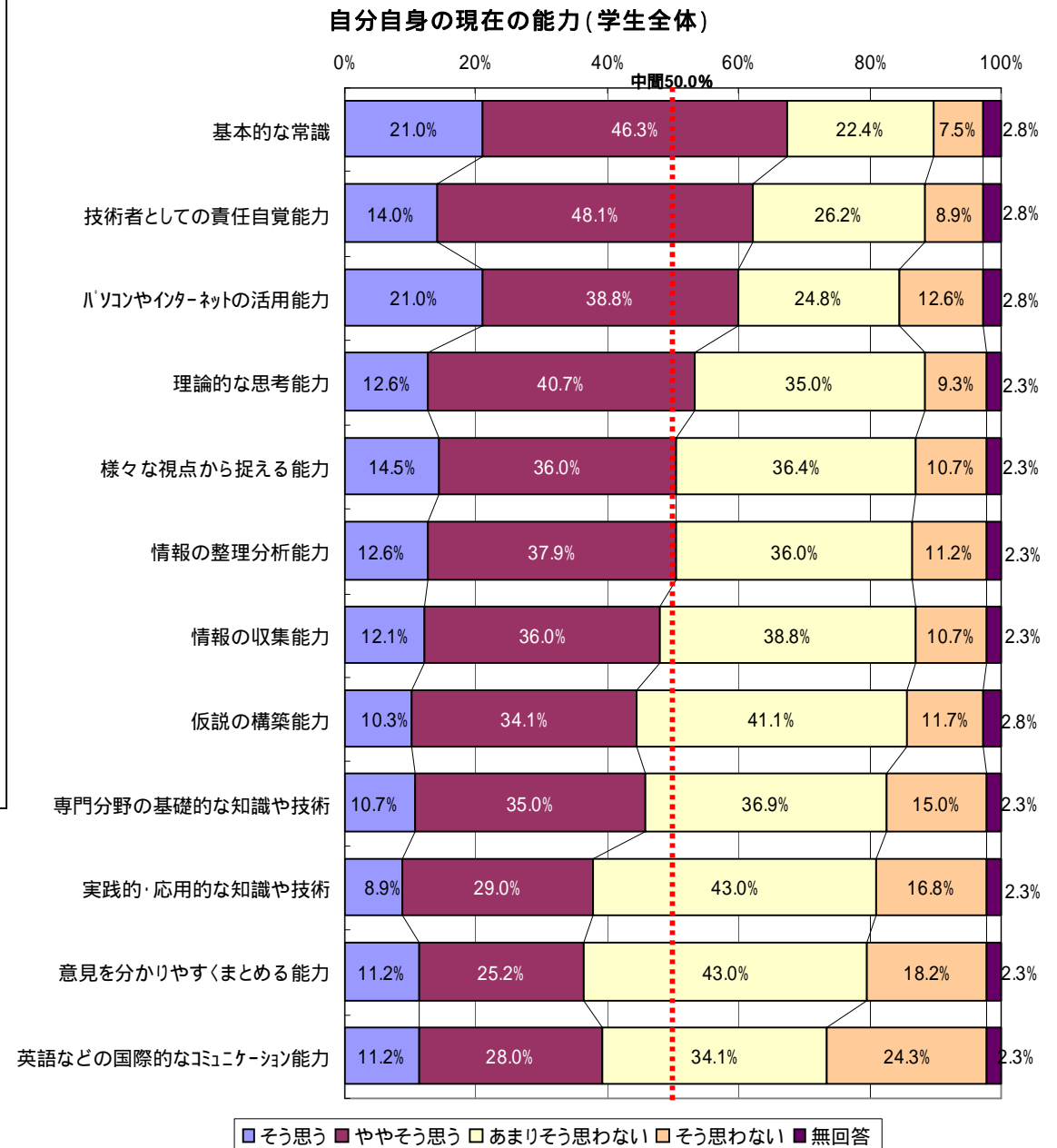
KIT-IDEALSへの取り組みは 1年生と4年生で意識が高かった。

- ほとんどの項目で1年生の意識が高かった。4年生は普段からKIT-IDEALSを意識しているようではないが、全体的に1年生に次ぐスコアの高さであった。
- 3年生と5年生が低めであり、3年生は「思いやりの心(K)」「誠実さ(I)」「自律性(A)」などが低めであった。そして、5年生は普段からKIT-IDEALSを意識することが少ないといった特徴が見られた。

< 6-1 > 学生の能力に関して

自分自身の能力に関して

- 昨年度まで「人材像」に関しては5年生と教職員に対して21項目の質問をしていたが、今年度から学生に対しては12項目に簡素化し、4年生と5年生に聞いている。
- グラフは加重平均のスコアで並べているが、最もスコアが高かったのが「基本的な常識」であり、「そう思う」が21.0%、「ややそう思う」が46.3%であり、合わせると67.3%の学生は「基本的な常識」は身につけていると考えているようであった。
- 次いで高かったのは「技術者としての責任自覚能力」「PCやインターネットの活用能力」「理論的な思考能力」などであり、これらには自信があるようであった。
- 逆に低かったのは「英語などの国際的なコミュニケーション能力」「意見を分かりやすくまとめる能力」「実践的・応用的な知識や技術」「専門分野の基礎的な知識や技術」といったものであった。
- これらより学生が感じている現在の能力をまとめると、基本的な常識や責任自覚能力、理論的な思考などといった基本的な物事の見え方やPC、インターネット活用能力には自信を持っているが、英語や情報の取りまとめといったコミュニケーション・表現能力や、専門分野や実践的・応用的な知識・技術には不安を持っているようであった。



学生の能力に関するまとめ

学生は「基本的な常識」「技術者としての責任自覚能力」はあり、「国際的コミュニケーション能力」「意見をまとめる力」がないと感じている。

- 学生が自信を持っているのは「基本的な常識」「技術者としての責任自覚能力」「PCやインターネット活用能力」などであった。
- 逆に劣っていると思っているのは「英語などの国際的なコミュニケーション能力」「意見を分かりやすくまとめる能力」「実践的・応用的な知識や技術」などであった。
- 学生は常識や責任自覚、PC、インターネットなど、基本的な能力の自信はあるが、英語や表現力などのコミュニケーション面や専門分野に不安を持っていた。

「情報工学」はPCや情報収集など能力に自信がみられるが、「機械工学」は全体的に自信がないと感じていた。

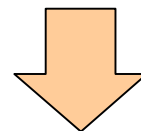
- 「情報工学」は「PCやインターネット」「情報収集・整理・分析」「英語」等で自信を持っているが、「技術者としての責任自覚能力」などで自信が見られなかった。
- 「電気電子」は突出したものはないが「理論的な思考能力」「様々な視点から捉える能力」など、ものの見方には自信を持っているようであった。
- 「機械工学」は全体的に自信がなさそうであったが、「専門分野の基礎的な知識や技術」に関しては自信を持っていた。

今年度の5年生は「基本的な常識」「PCやインターネット」などをはじめとして、多くの面で昨年の5年生よりも自信を持っていた。

- 昨年度の5年生と比べると、今年度の5年生の方が自信を持っており、昨年より大きく下がった項目はなかった。
- 特に自信を持つようになっていたのは「基本的な常識」「PCやインターネットの活用能力」「技術者としての責任自覚能力」「専門分野の基礎的な知識や技術」などであり、基本部分をしっかりと学んでいると感じているものと思われる。

教員の学生能力評価を見ると、多くの点で学生の自己評価を上回っており、教員が学生を高く評価していることが分かる。

- まず目についたのは、学生の「PCやインターネット能力」を教員が非常に高く評価している点であり、社会が求める能力に近いのではないかと評価していた。
- 他にも「専門分野の基礎的な知識や技術」「英語などのコミュニケーション能力」などの評価も高く、学生はこれらに関してはもっと自信を持って良いと思われる。
- 一方、不足している能力として「様々な視点から捉える能力」「仮説の構築能力」が挙げられていた。



< 学生の能力に関するまとめ >

- 学生は「常識」や「責任の自覚」といった【人間としての基本的な部分】や、「PCやインターネットの活用能力」といった【基礎的なITツールの使いこなし】などには自信を持っていた。
- 一方、自信を持てていないのは「英語などの国際的なコミュニケーション能力」や「意見を分かりやすくまとめる能力」といった【応用的なコミュニケーション能力】や、「実践的・応用的な知識や技術」といった【応用的な知識面】であり、言葉だけでは見えてこない【応用】という部分に苦手意識があるようであった。
- 5年生だけの比較になるが、昨年度よりも今年度の5年生の方が自分の能力に自信を持っていた。また、教員の学生評価も向上していた。これが学生層の違いによるものか、指導の違いによるものかは不明であるが、なぜこの差が現れたのかを確かめておく必要もあると思われる。
- 昨年度も教員の評価は学生の自己評価を上回っていたが、今回はそれをも上回る高い評価をしていた。学生はもっと自信を持って良いと思われ、その自信を持たせる指導も重要だと言える。

平成17年度

KTC総合アンケート調査結果[報告書]

発行日	平成18年6月22日
発行者	金沢工業高等専門学校
調査票設計・分析	有限会社 アイ・ポイント
編集	金沢工業大学企画部C S 室

無断複製厳禁

再生紙を使用しています